CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 （2010年ver.1）

（仮称）ライオンズ井口明神Ⅱ

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1　建物の熱負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 住宅性能評価における省エネルギー対策等級3の基準を満たす仕様とした。	3.0	0.08	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	3	外皮性能
	3.0	0.43								
	3.0	0.49	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制				
小計	3.0	0.36								
1.2　自然エネルギーの利用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用	2.1	自然ｴﾈﾙｷﾞｰの直接利用		
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用	2.2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰの変換利用		
小計	3.0	0.09								
1.3　設備システムの高効率化										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 設備システムの効率化を図る為、エコキュートを採用した。	4.9	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計	4.9	0.18								
1.4　設備システムの効率的運用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	3.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	0.0	0.00								
1.5　資源・マテリアル対策										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水型の給水器具を採用した。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.12	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.00	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	4.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	5.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.5	0.26								
1.6　ライフサイクルCO2排出率										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 可能な限りCO2の排出を削減する。	4.9	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計	4.9	0.11								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.7	0.72								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1　温熱環境の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出				
	3.0	0.24	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	1.8	0.96								
2.2　交通負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 全住戸分の駐車台数の確保している。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	4.0	0.04								
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	1.9	0.15								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1　耐用性の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 コンクリート躯体の劣化については住宅性能評価の劣化対策等級3の基準を満たしている。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	1	耐震性
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	2	免進・制振性能
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	2.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.5	0.47								
3.2　設備の更新性										
（コメント）　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 躯体に影響を及ぼさない範囲で設備のメンテナンス、更新が可能なレベルを確保する。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給水配管の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペース
小計	3.2	0.53								
3.「長寿命化対策」の推進の平均点（上記2項目）	3.3	0.13								
■重点項目の総平均（上記3項目）	3.3									